



▲高地蔵探訪ガイドブックの表紙
(http://www.toku-milt.go.jp/river/river_index.html)



◀東高原の南の地蔵



▲東中富の龍池の地蔵



▲国府日開の法光寺前の地蔵

背景

吉野川の下流域では、堤防の近くや道の四つ辻などに、台座の高いお地蔵さんが数多くあります。吉野川下流域は、土地が低く、たびたび洪水に見舞われていたため、人々は、お地蔵さんが水に浸かたり流されたりしては申し訳ないと思い台座を高くしたのです。このため、高地蔵の台座の高さは、その地区の洪水の大きさを示しています。また、これは洪水の恐ろしさを後世に伝えようとする先人からのメッセージでもあります。

アクセス うつむき地蔵

- 名田橋南詰より西南西に直線距離約1.5km
- 徳島市国府町東黒田
- 緯度経度 北緯34度06分01秒, 東経134度28分58秒



吉野川下流域のかつての氾濫原では、俗に「高地蔵」さんと呼ばれている台座の高いお地蔵さんが堤防の近くや川岸のあちこちに多く見られます。この高地蔵は、先人たちの「洪水でお地蔵さんが水に浸かたり流されたりしては申し訳ない」という信仰心から、つくられたものと言われています。そのため記録的大洪水に見舞われた江戸後期から明治にかけて建立されたものが多くあります。

高地蔵の台座は、土地が低く、浸水が大きかったと考えられる場所では高くなっています。言い換えると、高地蔵が高ければ高いほど、その地区の水害は大きかったことになります。台座高がメートル以上の高地蔵が約一九〇ヶ所確認されています。このうち、最も高いものは徳島市国府町東黒田の「うつむき地蔵」で、全高四・一九メートル、台座高約三メートルもあります。このお地蔵さんが見おろしている辺りは、吉野川と飯尾川にはさまれたかつての洪水常襲地帯であり、その高さから当時の氾濫水位がいかに高かったかがわかります。

お地蔵さんがある場所を地図上に記入してみると、吉野川下流域、しかも右岸（南岸）に多いことがわかります。これは下流域ほど洪水時の水位が高く、右岸（南岸）のほうが左岸（北岸）よりも地形的に低いため洪水常襲地帯になっていたことを反映したものと考えられます。

しかし、高地蔵が伝えているのは、それだけではありません。身近な高地蔵に供花や供物を捧げ、祀ることによって、毎日の暮らしの中で、いつも洪水の恐ろしさを忘れることなく、水防への心構えをしていたのです。高地蔵は、四国三郎・吉野川と闘い、共に生きた先人たちが水の危険性を伝承してきた文化財なのです。